

2022 年度の廃棄物の最終処分量および再資源化率に関するフォローアップ調査結果

1. 目標

当会では、1996年に「日本ゴム工業会環境保全に関する自主行動計画」を制定しましたが、このうち循環型経済社会の構築に関して、以下の目標を設定し、実現に取り組んでいます。

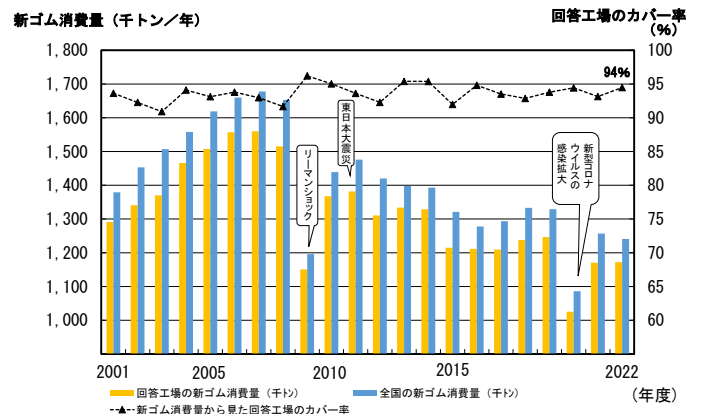
- ① ゴム製品製造工場から発生する廃棄物について、減量化、再資源化、適正処理を推進し、最終処分量を2001年度の実績をベースにして、2025年度まで95%以上削減を維持する。
- ② 資源循環の質を高める取組として 2025年度まで廃棄物の再資源化率85%以上を維持する。
- ③ 海洋プラスチック問題への対応およびプラスチック資源循環の推進を目的として、「2030年度目標：廃プラスチック類の再資源化率85%以上を維持する」を定め、実現に取り組む。

2. 新ゴム消費量およびカバー率の推移

回答工場の新ゴム消費量を基に全国の新ゴム消費量に対するカバー率を算出し、全国推計値として補正しています。2022年度のカバー率は94%となりました。

| 年度 | 2001 | 2005 | 2010 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|---------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 調査回答工場数 | 156 | 140 | 129 | 139 | 141 | 138 | 130 | 124 | 125 | 122 | 124 |
| 回答工場の新ゴム消費量(千トン) | 1,291 | 1,508 | 1,367 | 1,215 | 1,212 | 1,210 | 1,238 | 1,247 | 1,026 | 1,171 | 1,172 |
| 新ゴム消費量(千トン)※ | 1,379 | 1,619 | 1,439 | 1,321 | 1,278 | 1,293 | 1,333 | 1,329 | 1,086 | 1,257 | 1,241 |
| 新ゴム消費量から見た回答工場のカバー率 | 94% | 93% | 95% | 92% | 95% | 94% | 93% | 94% | 94% | 93% | 94% |

※全国の新ゴム消費量は、当会策定の「新ゴム消費量」(1~12月)を採用している。

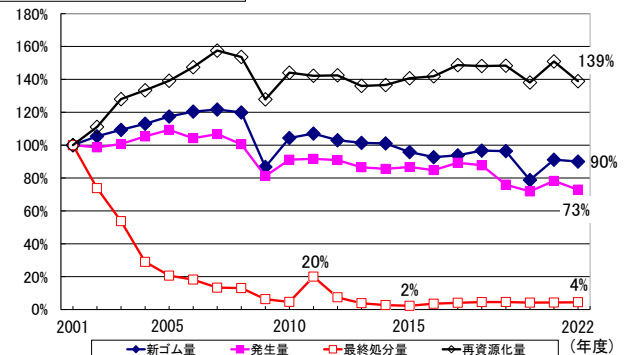


3. 廃棄物の発生量および処理方法別処理量の推移

(単位：トン/年度)

| 年度 | 発生量 | 最終処分量 | 再資源化量 | |
|--------------|---------|--------|---------|--------|
| | | | 再資源化量 | 売却量 |
| 2001 | 230,963 | 46,198 | 109,829 | 25,635 |
| 2005 | 252,426 | 9,531 | 152,826 | 38,785 |
| 2010 | 207,740 | 2,115 | 158,253 | 38,023 |
| 2015 | 200,208 | 1,045 | 154,530 | 43,689 |
| 2016 | 195,796 | 1,644 | 155,826 | 42,411 |
| 2017 | 206,201 | 1,896 | 163,287 | 44,889 |
| 2018 | 202,668 | 2,103 | 162,665 | 49,030 |
| 2019 | 175,360 | 2,119 | 162,910 | 45,702 |
| 2020 | 165,940 | 1,946 | 151,660 | 44,181 |
| 2021 | 180,707 | 1,971 | 165,722 | 48,725 |
| 2022 | 168,307 | 2,055 | 152,562 | 48,870 |
| 2001年度と比べた増減 | ▲27.1% | ▲95.6% | +38.9% | +90.6% |

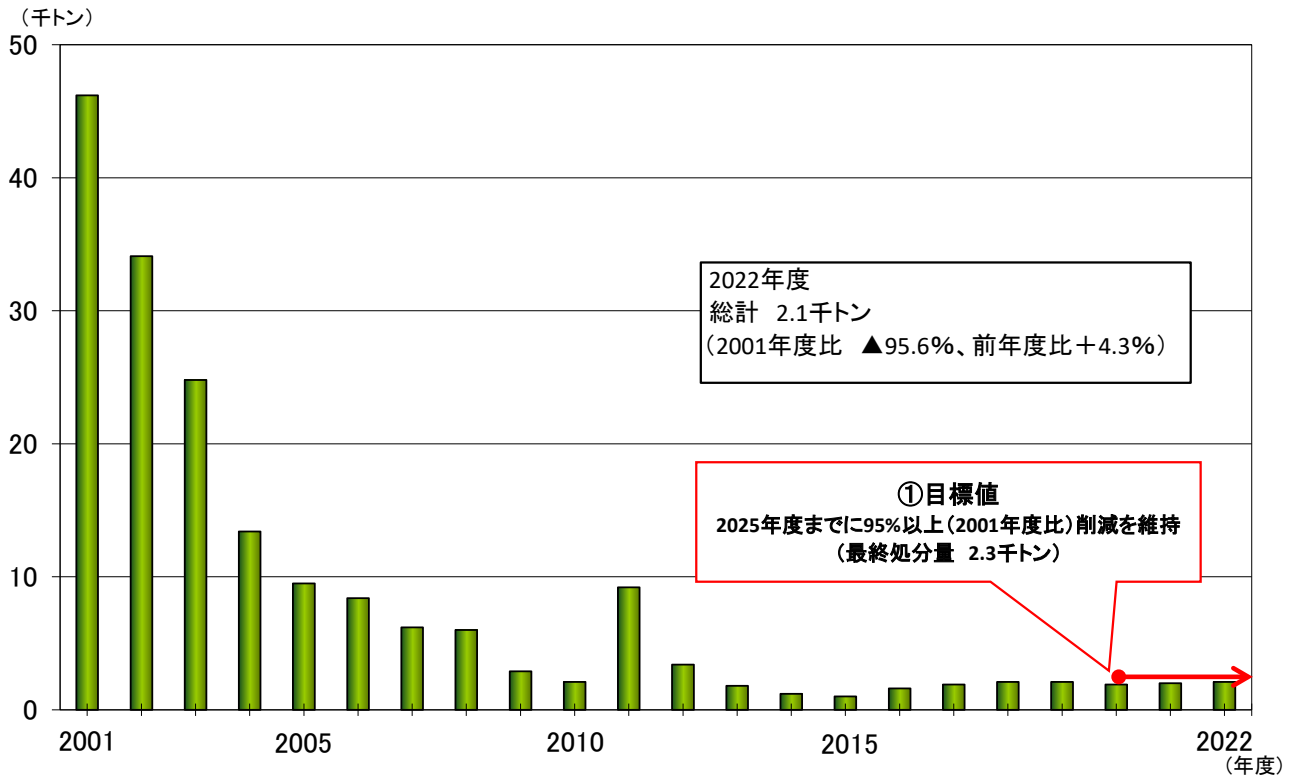
2001年度を100とした場合の推移



注)

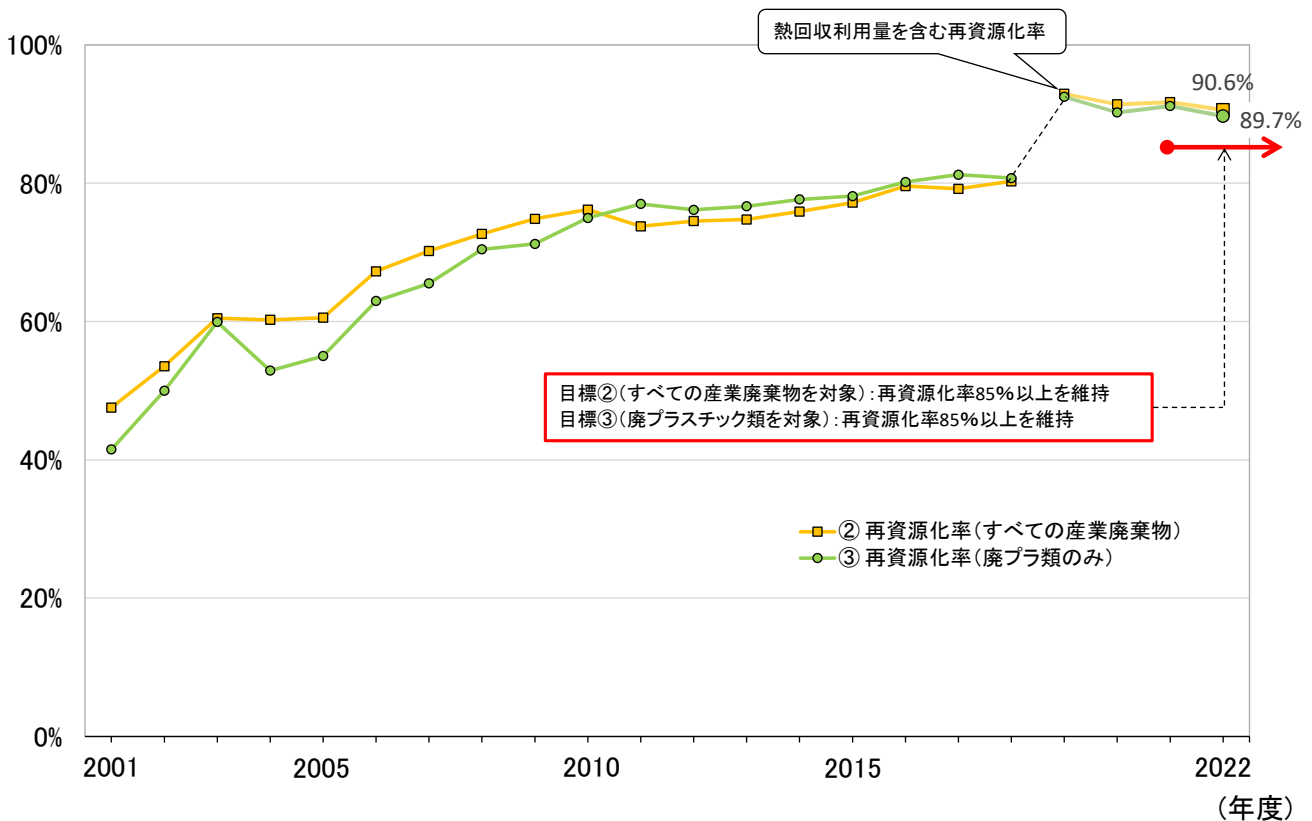
- ① 発生量…ゴム製品製造工場から発生した廃棄物量(製品廃棄物を含む)。
- ② 最終処分量…廃棄物を直接最終処分した量および自社で焼却等の中間処理をした後の残渣を最終処分した量の総量。
- ③ 再資源化量…廃棄物を再資源化した量および自社または外部で中間処理した後の残渣を再資源化した量の総量とし、2019年度より有効に熱回収されているもの(燃料利用も含む)を含める。
- ④ 発生量等の数値は、ゴム工業会会員企業を対象に行った調査結果を新ゴム消費量に基づくカバー率で補正し、全国値として推計している。
- ⑤ 最終処分量について、2011~2014年度にかけて震災の影響があった(影響を除いた最終処分量は2001年度比で、それぞれ2011年度▲97.1%、2012年度▲97.4%、2013年度▲97.5%、2014年度▲97.8%となる)が、2015年度以降はなかった。

4. 最終処分量の推移



5. 再資源化率の推移

2019年度の実績から、有効に熱回収されているものは(燃料利用も含む)再資源化に含めている。



再資源化率=再資源化量/発生量

6. まとめ

- ①全国の新ゴム消費量[※]は1,241千トン（前年度比-1.3%）、回答工場分の新ゴム消費量は1,172千トンと前年度比横ばいとなり、カバー率は94%となりました。
- ②廃棄物発生量は、168,307トン（前年度比-6.9%）と減少しました。
最終処分量は、2,055トン（前年度比+4.3%）、目標の基準年度である2001年度に対し95.6%の削減となりました。
- ③廃棄物発生量に占める再資源化量は、152,562トンで再資源化率は90.6%となりました。そのうちの廃プラスチック類の再資源化量は、102,111トンで再資源化率は89.7%となりました。
最終処分量削減率、再資源化率（産業廃棄物全体、廃プラスチック類）ともに目標を達成しましたが、引き続き、本目標達成を目指し活動を推進していきます。

※ 日本ゴム工業会策定の「新ゴム消費量」による。